

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701095		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム 小春びより2号館		
所在地	青森県三戸郡新郷村大字戸来字金ヶ沢坂の下9		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事の他、運営推進会議での情報で、地域のイベントへ積極的に参加させていただいている。参加していく中で、少しずつ、地域の方々に理解され、「手伝いましょうか？」等と声を掛けていただいたり、会場の準備等の協力を得ている。
また、今年度から消防署と地域の消防団と一緒に、合同避難訓練を行っている。
私達は「元気棟」「笑顔棟」というユニット名にし、日々の生活を利用者と共に「元気」と「笑顔」で過ごせるように努めている。また、利用者個々にその人らしい生活を送れるよう日々の観察やご家族様からの情報を得て、希望や思いに沿えるよう努力している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年12月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流を図り、家庭的な雰囲気の中でその人らしくありのままに、安心して生活出来る第二の我が家」を理念に掲げ、「元気」と「笑顔」を心掛け、棟分けしている。また、毎朝唱和し、利用者らしい生活を送られるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームへ来られる近隣の方は殆どないが、運営推進会議に町内会長や民生委員、老人クラブの会長に参加していただき、情報を得て、村のイベント等へは積極的に参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学は希望時に対応している。実践者研修に参加したり、実践者リーダー研修終了後はファシリテーターにて参加させていただいている。また、外部実習を受け入れる際には、個人情報に関する契約を書面で交わしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回計画し、活動報告や情報交換を行っている。また、自己評価や外部評価の結果報告を行い、改善方法等を意見交換し、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には村の担当職員も参加し、自己評価や外部評価の報告を行っている。また、疑問点や相談等にもものってくれる。村の全世帯にグループの広報誌を配布している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してのマニュアルを作成し、身体拘束によるリスクや利用者本位に行動するための職員間の協力体制についても話し合い、利用者の安全に努めている。やむを得ず身体拘束を行う時には、家族の同意を得て、その理由や方法等について記録に残す体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関してのマニュアルを作成し、発見時の対応の取り決めがある。また、職員が虐待の認識がなくて対応していることが、受け取り側の利用者には虐待と感ずることもあることを話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加はないが、勉強会を行い、学ぶ場を設けている。必要に応じて対応出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時は契約書や重要事項説明書等、書面にて十分に説明を行い、理解が得られている。また、疑問点や心配事がないかを確認しながら進めている。利用料は家族の負担が少しでも軽減出来るように提案し、退居時の対応も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見が言いやすいように、家族には来居時や電話連絡時等に利用者の近況を報告している。利用者とは個別に対応出来る風呂等で話を聞いている。また、苦情受付の説明を行い、意見や苦情があった場合には速やかな対応に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時や日頃の会話等から出た意見を聞き、業務改善に努めている。また、面談時等に、個別に意見を話せる場を設け、職員の意見を反映出来るように努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与で日頃の職員の努力を評価し、改善点も伝えている。また、職員の体調や家庭の事情にも配慮出来るような勤務調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に支障のない時には、職員は個々の能力に合った研修へ参加している。また、参加した時には復命書を提出し、会議で伝達講習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地区認知症高齢者グループホーム協議会に加入しているが、業務上研修に参加出来ないことが多い。認知症実践者研修や認知症実践者リーダー研修等で知り合った他の事業者との交流もある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望や相談があった時には、相手の都合に合わせ、電話や面談を行っている。その際には利用者の希望や思いを把握するよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望や相談があった時には、相手の都合に合わせ、電話や面談を行っている。その際には家族の思いや希望を受け止め、相談しながらサービス内容の提案を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には利用者や家族のニーズを把握し、今必要な支援を見極め、対応出来るサービスを提供している。また、今すぐに対応出来ない事に関しては、その旨を伝え、方策を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の能力に応じた軽作業を提案し、行っていただいている。その際には感謝の言葉を伝えている。また、職員は利用者の観察を行い、その時々感情に合わせた対応が出来るよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時、ケアプランの説明時等に日頃の利用者の状態を報告している。また、家族への思いが強くなって職員で対応しきれない時には、家族への協力を依頼し、協力が得られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時や会話を通じて知り得た情報等で、今まで関わりの多かった方や馴染みの場所等を把握している。また、希望に応じてドライブ等に出掛けることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者間の人間関係を把握し、トラブルにならないよう見守りやフォローを行っている。また、利用者間で助けたり、助けられたりと、協力して生活をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には家族の不安や相談にのれるよう、いつでも連絡いただけるように説明している。また、退居先への情報提供を行い、今までの生活を継続出来るよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや希望、意向等、言葉だけではなく、表情や態度等でも読みとり、家族から情報を得て、利用者の気持ちを察する努力を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ここで生活をしていく中で、利用者の生活歴やライフスタイル等、利用者らしい生活を送れるように、必要な情報と理解を得て、入居時に家族から情報収集している。また、日頃の会話でも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いて、利用者の出来る事、分かる事等を把握している。また、生活リズムも日々、観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、利用者がその人らしく生活出来るよう希望や思いを汲み取り、また、家族の希望にも沿えるような計画を立てている。また、計画作成担当者とケアプラン担当が計画を作成し、職員の気付き等、会議等で話し合いの場を設けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の介護記録となっており、生活の様子や身体状態等を記録している。また、介護計画についても実践内容を記録して、気づきや工夫に関しても申し送り、記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの生活を継続出来るように、また、利用者や家族の希望に応じられるよう努力している他、地域のニーズに応えられるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員や老人クラブ代表者、町内会長、家族代表者と情報交換し、地域のイベントに参加させていただきながら、地域の方の協力も得て、楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医に受診できるよう支援している。また、受診後には家族に報告している。家族と受診をする場合は、日頃の状態を口頭と書面にて説明し、医師との情報交換も行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには看護師は配置されていないが、系列の事業所の看護師に相談したり、協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時には、家族や病院関係者と情報交換を密にし、対応している。また、入院が2週間以内の場合は、居室をそのまま使える体制を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期には対応出来ていないが、健康管理を行い、急変時の対応について家族へ説明を行っている。また、年齢を増す毎に身体機能の低下等があることを説明し、今後の対応についての相談等も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、誰でも閲覧出来る場所に置いている。また、定期的に勉強会を行っている他、救命救急の研修は2～3年に1度は受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、夜間を想定した訓練も行っており、今年度から地域の消防団との合同避難訓練も行っている。消火器は定期的に点検を行い、非常時に備えた食料や水、毛布等を用意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動を否定や拒否をすることなく、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した対応や個人情報について、定期的に勉強会を行い、自分の対応の振り返りを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力に応じた対応で、本人に自己決定していただけるような問い掛けを行っている。また、言葉だけではなく、表情や態度でも読み取れるように、日々の観察と職員間との情報交換を行い、努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会議等で話し合い、日頃の業務は利用者を主体にした対応が出来るよう、日々努力している。また、その時々体調や気分等にも配慮出来るような対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで衣服を選んでいる。また、自分で選べない利用者には、選択する形で衣服を選んでいただいている。床屋は2ヶ月に1度ホームへ来ていただき、散髪や顔の毛を剃ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には季節の品を取り入れ、誕生日には誕生者の好みの物を1品取り入れている。利用者の状態に応じて食事の準備や後片付けを手伝っていただいている。また、職員は利用者と一緒に食事を摂り、会話している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量を観察し、記録している。利用者の状態に合わせた対応が出来るよう、食事の形態を変えている。また、献立は系列の事業所の管理栄養士へ相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔の保持について、全職員が理解しており、食後のケアを行っている。また、利用者の習慣や能力に応じた対応が出来るよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを、確実に把握出来ていないが、日頃の観察でトイレのサインを見逃さないように努めている。また、訴えやサインがない時には定期的に声掛けしている。おむつ使用者はなく、パッドを使用し、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因について概ね理解出来ている。食事摂取量や水分量、活動量等にも注意し、観察を行っている。また、朝にはホールにて体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	基本入浴は利用者の希望に沿えるようにしているが、現状は職員の確保が難しく、午後からの入浴となり、希望に沿えない時もある。入浴を拒む利用者には、声掛けする職員を変える等の対応を行い、無理に勧めないようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせた対応を心掛け、疲労感が見られる時には休んでいただいている。不眠状態が見られる時には、日中の活動量にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服箱に処方箋を付け、誰でも確認出来るようにしている。内服セットは夜勤者で行っているが、ダブルチェックが出来るように、隣の棟の夜勤者と確認し合っている。また、内服箱は、飲み忘れがないか職員間で声を掛け合って、確認してから片付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を踏まえ、軽作業や趣味活動を促しており、活動が利用者の役割となっている事もある。また、出来た時には、感謝の言葉や誉め言葉を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回は行事や病院受診等で屋外に出掛けている。天気の良い時で車を用意出来る時には、利用者の声を聞き、ドライブへ出掛けており、おやつを買って食べて帰ってくることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者にとってのお金の重要性を理解し、利用者の希望で欲しい物がある場合には一緒に買い物に行っている。また、買い物に出掛けられない場合には、職員が購入し、対応している。金銭管理については家族の同意を得て、定期的に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族の希望があれば、その都度対応している。また、家族から利用者や職員へ手紙をいただいた時には、連絡を入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は照明や室温、音量等に配慮するように努めている。家庭的な雰囲気や、落ち着いて過ごせるよう椅子やソファを用意して、いつでも都合の良い時に休んでいただけるようにしている。また、施設内の装飾も季節を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファや畳を用意し、廊下にも休めるようにイスを設置しており、その時々で利用者が自由に休んでいる。また、利用者間の会話が弾み、笑い声や笑顔も見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅で使い慣れた物を持参されるように説明を行い、協力的な家族はテレビや食器等を持ってきてくれている。また、居室は本人と相談し、使いやすいようにダンスやベッドを配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の意欲や出来る事、出来そうな事を日々の生活の中から見つけ、その人らしい生活が出来るよう職員間で情報交換し、日々、努力している。		